

第26回

宗教倫理学会学術大会

*The Twenty-sixth Conference of
the Japan Association of Religion and Ethics*

2025年10月12日(日) 9時 開会

龍谷大学大宮学舎 清和館3階大ホール

学術大会テーマ

「不在者」の倫理

《午前の部》

□ 研究発表 9:00～12:15

《午後の部》

□ IAHR報告会 13:15～13:45

□ 公開シンポジウム (入場無料・申込み不要) 14:00～16:15

基調講演：

「不在者の力～スピリチュアルケアの視点から～」

谷山洋三 (東北大学教授)

シンポジウム：

登壇者

谷山洋三 (東北大学教授)

山本佳世子 (天理大学准教授)

岩井未来 (龍谷大学教授)

司会

鍋島直樹 (龍谷大学教授)

JARE <http://www.jare.jp>

協力 龍谷大学世界仏教文化研究センター応用研究部門
人間・科学・宗教オープンリサーチセンター

宗教倫理学会第26回学術大会テーマ 「不在者」の倫理 Ethics of the Absent

公開シンポジウム 14:00～16:15

基調講演 不在者の力～スピリチュアルケアの視点から～ 谷山洋三（東北大学 教授）

講演概要

死者のみならず、社会の中で弱い立場にある人たち、存在していても不在であるかのように追いやられている人たちをまとめて「不在者」と呼ぶならば、不在者や不在者を支援する人たちには何ができるのだろうか。人権運動家や社会起業家、社会福祉従事者などが主たる支援者であろうが、ここではスピリチュアルケアや宗教的ケアの視点、つまり臨床宗教師やスピリチュアルケア師の立場から考えてみたい。

いったん死者と生者に分けるならば、死者については宗教者や遺族などが代弁者となり、死者の言葉を伝えたり、想像したり、自分の思いを投影したりする際のエネルギー源を死者に求めている。そしてその力は、代弁者の声を聞く側も肯定的に受けとめざるを得ない雰囲気がある。その雰囲気とは、特定の文化圏において共有される宗教的ケアの前提と言えるものかもしれない。

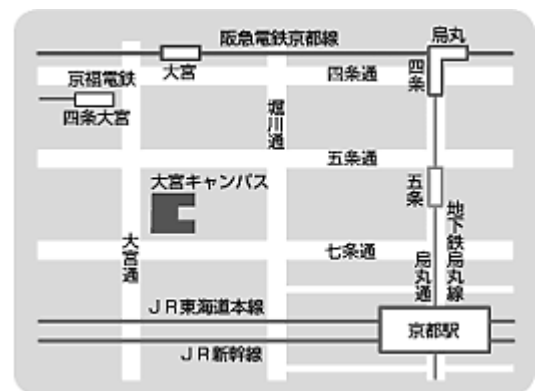
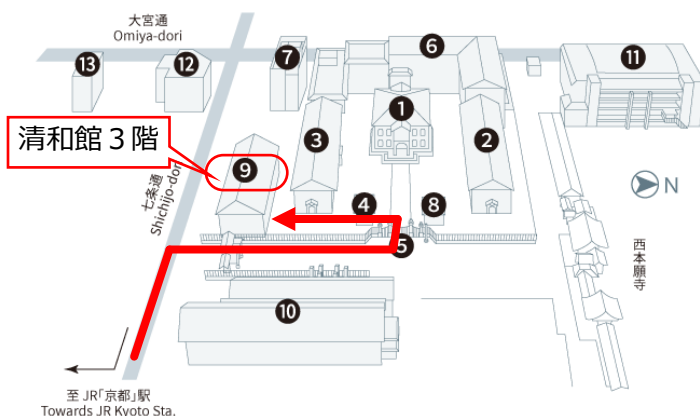
他方、生者については当事者の声こそが強い力をもつ。しかし、当事者は単独で声を上げるエネルギーを失っている。そのような場合にこそ、スピリチュアルケアという支援が必要である。これはよくある励ましとは異なり、基本的には傾聴によって当事者が見失ったエネルギー源を、当事者自身が（再）発見することを援助するケアである。

講師紹介

谷山洋三（たにやま・ようそう）

東北大学大学院文学研究科・文学部教授 広域文化学専攻 域際文化学講座（宗教学専攻分野）
東北大学大学院文学研究科博士後期課程（印度学仏教史学専攻）修了。専門は臨床死生学。2000年より03年まで長岡西病院ビハーク病棟にビハーク僧として勤務。四天王寺大学准教授、上智大学グリーンケア研究所主任研究員を経て、12年4月より東北大学大学院文学研究科准教授（実践宗教学寄附講座）。21年4月より現職（宗教学、死生学・実践宗教学兼任）

主要著作に、『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア 臨床宗教師の視点から』（中外医学社、2016）、『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010）、『仏教とスピリチュアルケア』（共編著、東方出版、2008）など多数。



- ①本館(重文) ②北翼(重文) ③南翼(重文) ④旧守衛所(重文) ⑤正門(重文)
⑥西翼 ⑦西翼別館 ⑧守衛所 ⑨清和館 ⑩東翼 ⑪図書館 ⑫清風館 ⑬白亜館